鼻からシュッ！

注射を使わないインフルエンザワクチン

フルミスト®
接種のご案内

お子さんの笑顔を守る、もうひとつの選択肢。

フルミスト®とは？

鼻の中にスプレーするタイプの
インフルエンザワクチンです。
弱毒化したインフルエンザウイルスを使用した
「生ワクチン」で、注射針を使わずに接種できます。

フルミスト®点鼻液（実物大イメージ）
※実際の製剤と一部異なる場合があります。

フルミスト®の特徴

対象年齢
2歳以上
19歳未満

接種回数
1シーズン
1回

接種方法
左右の鼻に
0.1mLずつ
噴霧
（合計0.2mL）

注射針を
使いません

どのくらい効果があるの？

国内の市販後調査では、
フルミスト®を接種していない場合と比べて、
インフルエンザの発症を
約55%減少させる効果
が報告されています。

※2024-25期の国内市販後調査（日本ワクチン学会2026-27期の見解）より
※ワクチンはインフルエンザへの感染や発症を100%防ぐものではありませんが、重症化予防を含め、インフルエンザ対策の重要な手段のひとつです。

接種後にみられることがある症状

- 鼻水・鼻づまり
- 咳・のどの痛み
- 発熱
- 頭痛・だるさ　など

多くは軽度で、数日で自然に改善します。
まれに強いアレルギー症状（呼吸困難、全身のじんましん、顔や唇の腫れなど）がみられた場合は、すぐに医療機関を受診してください。

シェディング（ワクチンウイルスの排出）について

フルミスト®は弱毒生ワクチンのため、接種後に鼻やのどからワクチン由来のイルスが一時的に排出されることがあります。

接種後1～2週間は、重度の免疫不全状態にある方（例：強い免疫抑制治療中など）との密接な接触は、できるだけ避けてください。

健康な家族との
通常の生活を一緒に
避ける必要は
ありません。

重度の免疫不全
状態にある方との
密接な接触は
避けましょう。

接種できない方・注意が必要な方

- 明らかな発熱や重い急性疾患がある方
- 明らかな免疫機能の異常がある方
（免疫を抑える治療を受けている方など）
- 妊娠している方
- ワクチン成分で重いアレルギー反応を起こしたことがある方

また、以下の方は接種前に医師にご相談ください。

- 喘息がある・最近ぜーぜーしたことがある方
- 強づまりが強い方
- 基礎疾患のある方・治療薬を使用している方

接種後の生活について

接種後、元気であれば、
フルミスト®の接種だけを
理由に登園・登校を
休む必要はありません。

接種後しばらくは、ワクチン由来ウイルスの影響でインフルエンザ検査が陽性になる可能性があります。
発熱などで医療機関を受診するときは、
「フルミスト®を接種したこと」
を必ずお伝えください。

注射ワクチンとどちらがいい？

フルミスト®も注射ワクチンも、どちらもインフルエンザを予防するためのワクチンです。
フルミスト®には「注射をしない」「1シーズン1回」という特徴がありますが、
年齢・体調・基礎疾患・治療内容・これまでの接種歴などによっては、注射タイプのワクチンの方が適している場合があります。お子さんにとって最適な方法を、医師と一緒に選びましょう。

リンク文書

経鼻インフルエンザワクチン「フルミスト」について

今シーズンも、経鼻インフルエンザワクチン「フルミスト」も接種します。
このワクチンはアメリカでは20年以上前から使用されていて、以前当院でも数年間個人輸入で接種を行っていました。しかし、A型インフルエンザ（H1N1）に対する効 果が証明されず、米国の予防接種に関する認可をする機関、ACIP（AdvisoryCommittee for Immunization Practices）の推奨からはずれたため、接種をやめていました。しかし、ワクチンが改良されて再度ACIPからインフルエンザワクチンとして推奨されていることと、昨年、このワクチンが国内で承認されたので、今シーズから再度「フルミスト」の接種を行うこととなりました。

「フルミスト」について

・鼻にスプレーするタイプのインフルエンザワクチンです。
・インフルエンザウイルスが侵入してくる鼻の粘膜に免疫を誘導することで、高い感染防御効果が期待できます。
・血液内にも免疫を成立させることで、感染してしまった場合でも重症化を抑制す るといわれています。
・従来のワクチンより効果の持続期間が長いとされていて、従来のワクチンの効果が約5カ月間持続するのに対して、フルミストでは約1年間効果が持続するとされています。
・フルミストは生ワクチンですが、弱毒化したインフルエンザウイルスを用いています。赤ちゃんが使用しているロタウイルスワクチンと同じようなイメージでよいと思いま
す。生ワクチンは不活化ワクチンよりも効果がつきやすいため、シーズン一回の接種で十分とされています。

- 副反応は接種した後に、鼻水、、鼻づまりの症状やのどの痛みといった軽度のかぜ症状が約10%の人にみられるようです。従来のワクチンと比較して、重篤な副作用の 出現は認めておりません。

- 気管支喘息で通院されているの方への接種について
今回承認されたワクチンの添付文書には、重度の喘息を有する者又は喘鳴の症状を呈する者における接種には注意が必要とされています。当院としては、5歳以上で、接種前6カ月間に喘息発作を起こしていない方に関しては接種可能とします。
当院がかかりつけでない方は、主治医の許可が出た場合に限り接種可能とさせていただきます。ご了承ください。

問診票の説明文書

経鼻弱毒生インフルエンザワクチン（フルミスト点鼻液）の接種をご希望の方へ

経鼻弱毒生インフルエンザワクチン（フルミスト点鼻液）の接種を実施するにあたり、接種を受けられる方の健康状態を把握する必要があります。そのため、裏面の予診票にできるだけ詳しくご記入の上、医師の診察をお受けください。

なお、お子さまの場合、健康状態をよく把握している保護者の方がご記入ください。

ワクチンの効果と副反応

本ワクチンはインフルエンザウイルスを弱毒化した生ワクチンです。接種後に体の中で増えたワクチンウイルスに対する免疫ができ、インフルエンザウイルスの感染を予防します。

一方、本ワクチンの接種に伴う副反応として、鼻閉・鼻漏、咳嗽、口腔咽頭痛、頭痛などがみられることがあります。また重い副反応として、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）や、海外ではベル麻痺を含む脳神経障害、脳炎、けいれん（熱性けいれんを含む）、ギラン・バレー症候群（手足に力がはいらない、しびれ、食べものが飲み込みにくい、呼吸が苦しいなど、）血管炎（発熱、頭痛、倦怠感、紫斑、紅斑などなどが報告されています）。

なお、副反応による健康被害が生じた場合の救済については、健康被害を受けた方または家族が独立行政法人 医薬品医療機器総合機構法に基づいて手続きを行うことになります。

詳しくは独立行政法人 医薬品医療機器総合機構のホームページ（https://www.pmda.go.jp/））をご覧ください。

予防接種を受けることができない方

1 明らかに発熱している方（通常は37.5℃を超える場合）
2 重い急性疾患にかかっていることが明らかな方
3 過去に本ワクチンに含まれている成分で、アナフィラキシー（通常接種後３０ 分以内に出現する呼吸困難や全身性のひどいじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のことを起こしたことがある方
4 明らかに免疫機能に異常のある疾患をお持ちの方、免疫抑制をきたす治療を受けている方
5 経口または注射の副腎皮質ホルモン剤を使用している方
6 妊娠していることが明らかな方
7 その他、医師が予防接種を受けることが不適当と判断した方

予防接種を受ける際に医師と相談していただく方

1 ゼラチン含有製剤またはゼラチン含有の食品に対して、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）などの過敏症を起こしたことがある方
2 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患などの基礎疾患のある方
3 過去に予防接種で接種後２日以内に発熱、全身性の発疹などのアレルギーを疑う症状がみられた方
4 過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある方
5 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方、または近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
6 重い喘息のある方または喘鳴の症状のある方
7 薬の服用または食事（鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のもの）で発疹が出たり、体に異常をきたしたことのある方
8 発育が遅く、医師、保健師の指導を受けている方
9 妊娠中または妊娠の可能性のある方（接種前1か月間避妊していない方）、授乳中の方
10 サリチル酸系医薬品（アスピリンなど）、ジクロフェナクナトリウム、メフェナム酸を服用している方

予防接種を受けた後は以下の点に注意してください

1 接種後は、ショック、アナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管性浮腫など）が起こることがありますので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
2 接種当日は過激な運動は避けてください。また、健康状態に十分注意し、体調の変化、高熱などの異常な症状を呈した場合には、すぐに医師の診察を受けてください。なお、接種当日の入浴は差支えありません。
3 妊娠が可能な方は、接種後2か月間は妊娠をしないように注意しましょう。
4 接種後1～2週間は乳児や重度の免疫不全の方との接触を可能な限り控えましょう。